

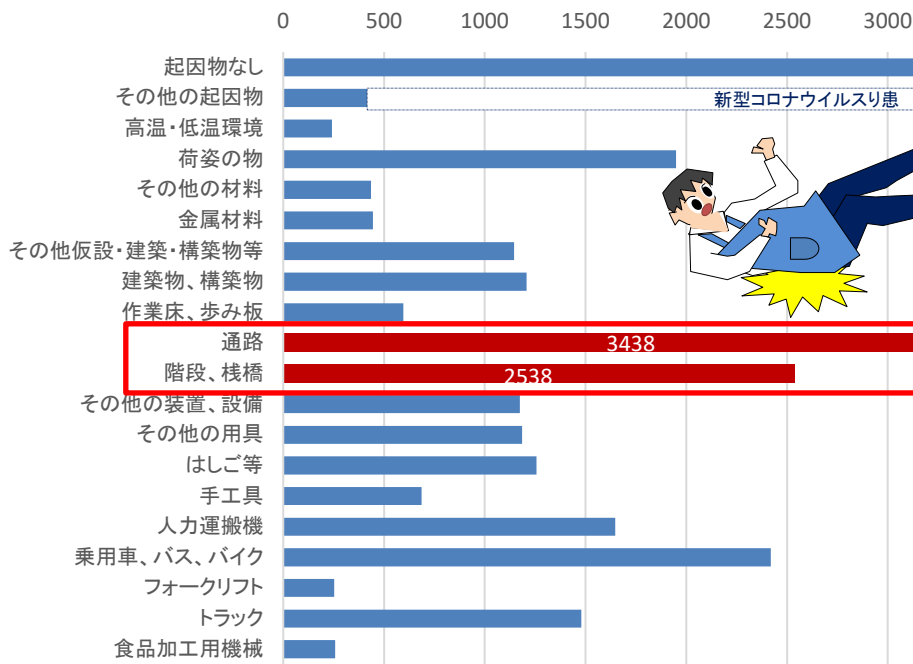
『階段』・『通路』の災害を防ぐために

<階段・通路は**労災リスク高**について認識し、対策を！>

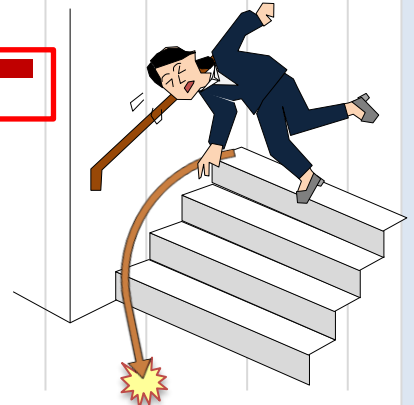
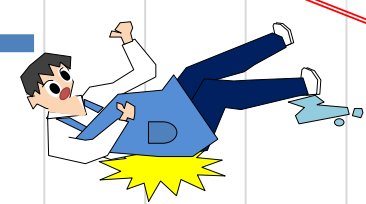
～敷地内の危険箇所の特定制と対策、安全教育の推進～

東京都内の労働災害発生状況と特徴

【東京】起因物別労働災害(休業4日以上)R1～R3データ

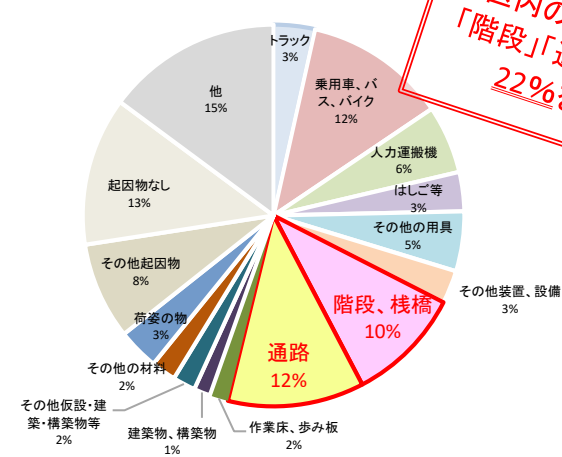


東京都内において年間、
●階段等で約800件
●通路で約1100件
労働災害が発生しています



北区の労働災害発生状況と特徴

【北区】起因物R1～R3

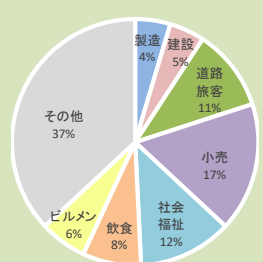
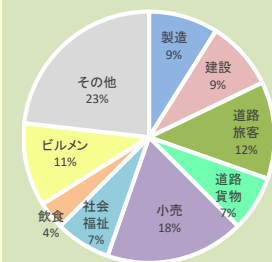


北区内の労働災害のうち
「階段」「通路」に起因が
22%を占める

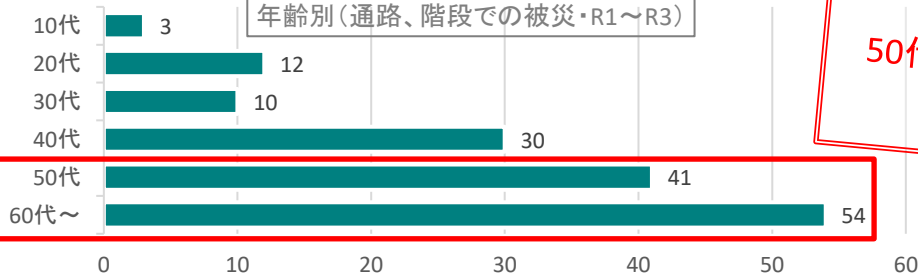
業種別発生状況(階段、通路による災害)

階段

通路



年齢別(通路、階段での被災・R1～R3)



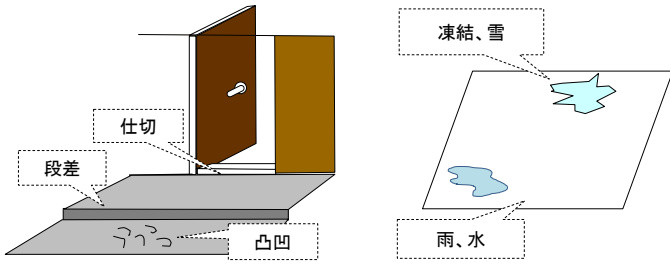
50代以上の被災が63%を占める
(40代以上だと83%を占める)

(具体的な対策、教育については裏面)

転倒リスクのある作業、場所の特定と対策の推進

○巡視や作業からの聞き取りで危険箇所を特定

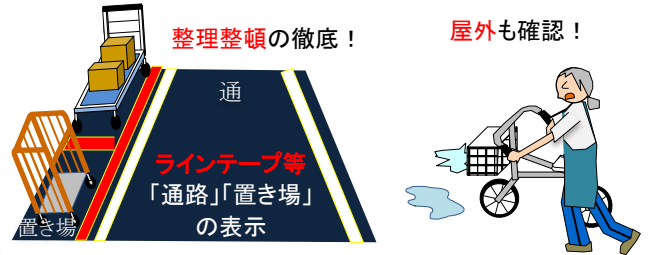
滑り、躓き、踏み外しのおそれ



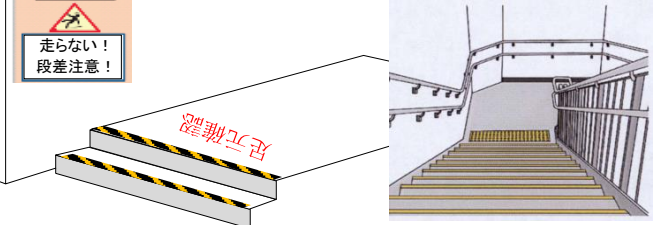
転倒防止の職場点検表(例)

1. 「出入口」	(1) 段差はないか	(2) すべり止め処理がされているか	(3) 雪や雨水が入り込んでいないか	① ない	② ある	③ いる	④ いない	
2. 「事務所・オペレーション室」	(1) 通路は確保されているか	(2) 床面磨耗の処理はされているか	(3) 書類などが床面に積まれているか	① いる	② いない	③ いる	④ いない	
3. 「店舗・倉庫等作業場」	(1) 床面に凹凸はないか	(2) 床面に水・油類などが付着していないか	(3) 必要な作業スペースが確保されているか	(4) 資材・品物・不要物が放置されていないか	① ない	② ある	③ いる	④ いない

○特定した危険箇所の除去、低減、共有(周知)



危険箇所の「見える化」の推進!



安全教育により危険認識の共有、安全意識の向上

○安全教育(災害事例や災害の特徴・危険の高い箇所・対策)

急がない(走らない)ことの徹底を!



教育資料や視聴覚教材の活用

転倒予防の教育資料(労働者・管理者向け)

転倒予防のための教育(労働者向け)
～巡回を知ってリスクを減らそう～

人間が直立二足歩行を始めたことで「転倒リスク」が増大したと言われており、人が歩く速度に転倒リスクがあります。
現在、転倒災害が労働災害のうち最も多く発生しており、増加傾向にあります。また、日常生活においては、「交通事故」による死亡数より「転倒」による死亡数の方が多くなっています。
あらゆる歩行場面において転倒リスクが存在することを知らせて、リスクを低減させましょう。

～トップが打ち出す方針 みんなで共有 生み出す安全・安心～
東京労働基準監督署安全課

東京局 転倒教育 検索

転倒・腰痛防止用視聴覚教材

転倒・腰痛防止用視聴覚教材

～トップが打ち出す方針 みんなで共有 生み出す安全・安心～
東京労働基準監督署安全課

労働者の行動に起因する災害(行動災害)防止の推進

○靴の選定

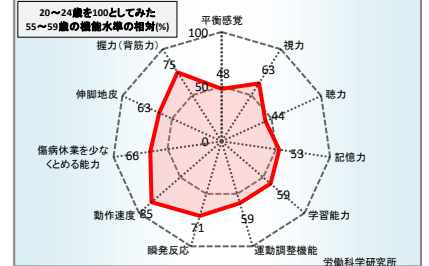
適切な靴の選定



- ポイント
- 靴の屈曲性
 - 靴の重量
 - 靴の重量バランス
 - つま先部の高さ
 - 靴底と床の耐滑性

○高齢労働者に対する対策

加齢に伴い身体機能は変化



平衡感覚・・・バランス崩す
視力・・・段差の認識
脚力・・・歩行力低下(踏ん張れない)
動作反応・・・とっさに手が出ない
回復力・・・骨折等重篤になる(休業期間が長期化)

- 労働者本人の自覚
- 変化を考慮した対策

エイジフレンドリーな職場づくり推進

転倒、腰痛等の行動災害(労働者の作業行動を起因とする労働災害)の予防対策の推進

企業の自主的な安全衛生管理の推進、国民の安全意識の向上を図る

STOP! 転倒災害プロジェクト

転倒災害防止に関する意識啓発、

◇“滑り”“つまづき”“踏み外し”の危険箇所をなくす!

巡視や聞き取り等で危険箇所を特定 職場改善

◇転倒災害防止の重要性を教

転倒災害防止 視聴覚教材等の活用 (行動災害防止参照)

<特設サイトはこちら>

職場の安全サイト 検索

教育、災害防止の資料

転倒予防の教育資料「PW資料」(労働者・管理者向け)

転倒予防のための教育(労働者向け)
～巡回を知ってリスクを減らそう～

人間が直立二足歩行を始めたことで「転倒リスク」が増大したと言われており、人が歩く速度に転倒リスクがあります。
現在、転倒災害が労働災害のうち最も多く発生しており、増加傾向にあります。また、日常生活においては、「交通事故」による死亡数より「転倒」による死亡数の方が多くなっています。
あらゆる歩行場面において転倒リスクが存在することを知らせて、リスクを低減させましょう。

パワーポイント資料
～トップが打ち出す方針 みんなで共有 生み出す安全・安心～
東京労働基準監督署安全課

吉本芸人の特別動画公開中(R4限り)
スベリやムチャはアカン! 吉本芸人の特別動画公開中!

動画はこちらから▼

野田クリスタル 代役 ひるちゃん

高齢労働者の安全と健康確保のためのガイドライン

高齢労働者が安心して安全に働ける職場環境づくりや労働災害の予防的観点からの高齢労働者の健康づくりを推進

働く高齢者の労働災害増加!
60歳以上の労働災害1/4以上!
災害発生率が高齢層で高い!

高齢者の就業状況や業務内容に応じた実現可能な対策を

- 『トップの方針表明』と『担当者や組織』の指
- 『職場環境の改善』
- 『体力や健康状況』の把握と対応
- 『安全衛生教育』

<関連パンフレット>



※エイジフレンドリー助成金制度のご活用を

高齢労働者 ガイドライン 検索